

令和7年度

自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	47	学校名	土岐紅陵高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒が主体的に学ぶ総合学科の高校として 多様で地域に開かれた学びを通して 未来に向かって自己と社会を拓く人の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	・生徒一人一人の尊厳を最大限に尊重し、一人一人の良さや可能性を見つけ、伸ばす。 ・学力とコミュニケーション能力を向上させる。 ・キャリア意識の向上とその礎となる自己肯定感を醸成する。 ・自立に必要な基本的生活習慣の確立に加え、個人及び集団としての規範意識を向上させる。 ・家庭や地域との連携を大切にした教育活動を推進する。 ・「開かれた学校づくり」を進めるとともに、広報活動を充実させる。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・基本的な生活習慣、倫理観及び社会的なマナーを身に付け、互いの多様性や人権を尊重し思いやる心と生命、自然、文化を大切にする生徒 ・自己の可能性を信じ、自己を成長させるため、生涯にわたり主体的かつ意欲的、継続的に学習する努力を惜しまない生徒 ・思考力と適切な判断力を身に付け、社会の進展に主体的に対応するとともに、他者と協働して豊かな地域・社会を創造する生徒
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・一人一人の個性、感性及び長所を伸ばすための多様な科目選択を可能にする教育課程の編成と、I C Tを有効に活用した粘り強く丁寧できめ細かな指導の実施 ・地域社会の一員としての自己有用感を持たせるとともに、主体性や協調性を育成するため、地域社会と連携・協働した体験的・実践的な活動を積極的に実施 ・思考力、判断力、表現力等を育成するための課題解決学習を中心とした探究的な学びの推進
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・互いの違いや良さを理解し、互いに認め合う努力をするとともに、自らを律しつつ、他者を思いやり、他者とともに協調する努力ができる生徒 ・自己の生き方について主体的に考えるとともに、将来の多様な進路実現に向けて学習活動、部活動、学校行事などに真面目に取り組む生徒 ・奉仕活動や体験活動等の地域活動を通して地域社会と積極的に関わり、仲間とともに人間性、社会性を高めようとする生徒
学校の抱える課題	・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改革が必要である。 ・コミュニケーションの図り方が上手くいかず、トラブルに発展するケースが多くある。 ・自身の考えを的確に表現する力が生徒に不足している。 ・多様な進路を支援できる体制づくりが十分に構築されていない。 ・本校の特徴ある学びについての中学校の理解が不十分である。	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	・「学ぶ楽しさ」を感じさせる授業改善と「協働的な学び」の充実 ・教育課程や校務のリフォーム
	生徒指導	・自己の在り方や生き方を主体的に考えることができる人の育成 ・思いやりのある人の育成 ・社会で求められる資質や品格を身に付けた人の育成 ・地域社会に貢献できる人の育成
	進路指導	・生徒の可能性を伸ばす進路行事の一層の充実 ・自身の考えなどを的確に表現する力を身に付ける機会の提供
	その他	・より魅力的な広報活動の推進 ・探究学習の在り方・持ち方についての開発

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
教務	・ユニバーサルデザインとラーニングピラミッドを意識した授業改善	施策Ⅱ-8	・生徒学校評価の「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」の項目で、肯定的な評価が70%以上。 ・高大連携事業の実施。 ・地域と連携した授業の実施。	・生徒アンケートの「先生の授業は丁寧で分かりやすい」「テストの点だけでなく様々な面から学習の評価を行っている」「ICT機器を有効に活用した授業が行われている」の各項目で、肯定的な評価が80%以上を占めた。 ・「彩プロジェクト」や「保育学入門」を含め、授業、進路指導、部活動、地域連携など16の事業で高大連携を実施することができた。 ・1・3年次は窯元巡りやインターンで美濃焼や地場産業を学び、2年次は地域まつりで協働し、子ども向けアトラクションの企画・運営を行った。	A	○ユニバーサルデザインとラーニングピラミッドを意識した授業改善を推進するため、研修および授業改善アンケートを実施した。 ○高大連携教科「保育学入門」を開講し、14名が受講し、そのうち12名が修了した。 ○授業以外で検定に挑戦する生徒が見られ、漢字検定3級に2名、実用英語検定準1級に1名が合格した。 ○入学者選抜における定員確保のため、学習塾への広報活動を実施した。 ▲「補習や検定対策等の指導・支援を通じて、一人ひとりの能力に応じた指導を行っている」に対する保護者の肯定的評価は、前年度比4.4ポイント増加したものの、全体では64.0%にとどまり、課題が残っている。 ▲授業のユニバーサルデザイン化やICT活用、スタディサブリの活用など、「学び合い」を促進する教育集団の育成が今後の課題である。	
	・高大連携事業の実施	施策Ⅰ-1					
	・地域課題の理解と解決能力の育成	施策Ⅱ-13					
生徒支援	・自己肯定感と自己有用感を育み、自らの価値と可能性に気づかせる。	施策Ⅰ-1	・生徒学校評価の「本校では、一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている。」の項目で、肯定的な評価が80%以上。 ・生徒学校評価の「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」の項目で、肯定的な評価が80%以上。 生徒学校評価の「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。」の項目で、肯定的な評価が80%以上。 学校行事・部活動等で他者と協働し物事に取り組む姿を見ることができ るが。	・生徒学校評価の「先生は、悩みや相談ごとに親身になって対応してくれる。」の項目で、肯定的な評価が86.6%であった。 ・生徒学校評価の「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」の項目で、肯定的な評価が87.4%であった。 ・生徒学校評価の「挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。」の項目で、肯定的な評価が89.5%であった。	A	○落ち着いた学校を土台とし、授業・部活動・学校行事等で、前向きに挑戦する姿が多くみられた。 ○外部の方から「学年が上がるにつれて、授業に目的意識をもって取組んでいる姿がみられた。3年生の顔つきに自信が表れていた。」という、評価をいただいた。 ○3年間の積み重ねの重要性を感じた。学校全体として、更なる成長を目指すことが必要である。	B
	・出会いと学びを通じて、人の気持ちを考え、発言・行動することができる力をつけさせる。	施策Ⅰ-1					
	・基本的生活習慣を確立し、TPOをわきまえた立ち振る舞いができる力をつけさせる。	施策Ⅰ-1					
	・集団における自身の役割を理解し、他者と協働し責任をもって物事に取り組む力をつけさせる	施策Ⅰ-1					
進路支援	スタディサブリ活用推進や「じぶん開発講座」開催等を通して、生徒の自己表現力を向上させる。	施策Ⅱ-8	・生徒学校評価の「本校では、生徒の将来の進路の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」の項目で、肯定的な評価が70%以上。 ・講座や説明会の参加者数や開催後の感想 ・進路実績	大学入試説明会（12名参加）を実施し、選抜方法の違いや特色ある入試を実施している国公立大学を紹介した。また、高大連携事業「看護講座」（6名参加）を実施した。 生徒学校評価の「自分の将来の希望に沿った進路指導を行ってもらえている。」という項目の肯定的な評価は89.0%であった。 今年度は結果的に公務員試験の受験者はいなかったが、対策強化の準備を進めていく。	B	○生徒および保護者の学校評価の進路指導に関わる項目は全体的に向上し、生徒・保護者の進路意識が高まった点は成果としてあげられる。 ▲産業社会と人間、総合的な探究の時間の中で生徒の自己表現力を向上させる取り組みも進めているが、スタディサブリの活用度の面では課題が残る。	
	系列の特性に応じた進路説明会を開催する。	施策Ⅳ-20					
	公務員志望者に対して、学力向上の支援や面接指導の充実を図る。	施策Ⅳ-20					
その他	・「産業社会と人間」「総合探究学習」の評価の開発	施策Ⅱ-13	・教員向け事後アンケートの回答。 ・生徒向け事後アンケートでの満足度80%以上。 ・志願者数の増加	・年間を通じて「ロードマップ」に基づき、年次会と連携しながら「産社・総探」を進めた。3年次の探究学習では取り組み方を変更したが、実施の枠組みを概ね固めることはできた。 ・3年次窯元インターンを実施したことで3年間を見通した窯元まつりが完成した。 ・中学生向けのイベント内容の充実を図るとともに、全職員体制で年3回の中学校訪問を実施した。本校の特徴を中学校にアピールすることができた。	B	・引き続き、年間指導計画のブラッシュアップを継続する。評価方法は継続課題である。 ・本校における探究学習の素地を固めたが、テーマ設定についてはさらなる工夫が必要である。系列での学びを土台に再考していく。 ・完成年度を迎えたが、窯元インターンの内容を改良していきたい。また、新転任の職員に対し、本まつりの様子を事前に共有する必要がある。 ・積極的に広報活動を行うことができた。	
	・土岐紅陵高校探究学習プログラムの充実	施策Ⅱ-13					
	・窯元まつり取組みの完成年度としての長期的展望に立ったシステムの構築	施策Ⅰ-4					
	・中学校向け学校説明会等での広報活動の充実	施策Ⅱ-13					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月9日

学校関係者評価

実施日：令和8年1月23日

・令和7年度および令和8年度入学生向けに教育課程を変更しているため、指導内容を検証する。 ・商業科における資格取得の多様化を推進し、大学の総合型選抜入試に有利となるよう、情報処理およびビジネス文書の検定を日本情報処理協会の検定へ変更する。 ・スタディサブリの機能をさらに活用するなどして、生徒の自己表現力の向上を一層図る。 ・進路に関わる魅力あるイベントの告知を積極的に行う。 ・探究学習のテーマ設定のアイデアについて、「系列での学び」を土台として年次会とともに検討し、探究的な学びを推進する。 ・3年次窯元インターンシップの内容を広げる。	・地域の祭りへの参加が3年目になり、生徒が積極的に参加できるようになり、地元の方々から高い評価を得ている。地域の人との出会いをとおして地元を愛せるようになるとうよい。 ・地域の祭りでの本校生徒の活躍を見たことで、小高連携が実現した。細く長くつながることで、今後もお互いの学びに活きるとよい。 ・「地域とともにある学校」として、小中連携、高大連携のほか、あまり聞かない中高連携という形で、授業見学や意見交換等をおとして関係を築けているのはよい。 ・文化祭は主体性と協調性が育まれるすばらしい行事だ。この経験で得たものは、就職先や進学先でも役立つはずだ。 ・「課題解決発表会」ではどのグループも生徒たちが自分の中だけで解決せず、人との関わりの中で様々な力を借りて探究していることがうかがえてよかった。 ・生徒の身だしなみが整っている姿を見て、日頃の教員の支援が生徒の心に伝わっていることが理解できた。
---	---